

## 第18回 DNA

IT生

アニメ映画「君の名は」が大ヒットし、海外でも好評を博している。知人に「是非に」とチケットをもらったので、行ってみた。てっきり、恋愛ものだと思い込んでいたので敬遠していたが、なんの、東日本大震災の被災地へのオマージュである。

表現上は、ある若い男女の心の交流という形をとっているが、語りかけているものは、日本人の精神性に通じ、そして、大災害に翻弄されている現代人にとっては非常に示唆に富む。

今も上映されているので、詳述は避けるが、自己流の解釈でかいつまんでいうと、災害列島に生きる日本人がもつ DNA に気づいた2人の若い男女が時空を超えて協力しあい、仲間を巻き込んで避難を呼びかけ、大災害から人々を救う、というものだ。DNAの継承を媒介するのは、災害に襲われる集落の神道の儀式だ。

DNAの継承の切迫性に気づいた若者と対比して描かれているのは、その日暮らしの生活に汲々とする大人たちである。

とここまで考えると、前回年始の言葉として紹介した、今上天皇の言葉がにわかによみがえる。以下にもう一度記す。

「日本は美しい自然に恵まれています、その自然は時に非常に危険な一面を見せることもあります。この度の（東日本）大震災の大きな犠牲の下で学んだ経験をいかし、国民皆が防災の心を培うとともに、それを次の世代に引き継ぎ、より安全な国土が築かれていくことを衷心より希望しています」

—東日本大震災5年追悼式にて、今上天皇—

いわずもがな、天皇家は神道の継承者である。今上天皇の言葉は、単に防災への呼びかけではなく、日本人のDNAの存続をかけた悲痛な叫びではないだろうかと思えてくる。



阪神大震災の追悼式に参加する若者たち

毎年、阪神大震災の追悼式に参加するが、大人たちの関心が時とともに薄れる一方、ここ数年、高校生や大学生たちの姿が目立つようになった。午前5時46分に、学生服の若者が神戸市役所南側の東遊園地に集い、祈りを捧げる。

若者たちの思いが、次の大災害に間に合えばと切に願う。

(平成29年1月)